

# 第4学年「国語科」シラバス

4年生ではこんな学習をします

年間の学習計画

## 学習の目標

国語に対する関心を持ち、進んで話し合ったり、書いたり、読んだりしようとする態度を育てます。

相手や目的に応じて伝えたいことを選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて話すことを学びます。また、話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめたり、互いの考えの相違点や共通点を考えたりしながら進んで話し合えるような態度を育てていきます。

相手や目的に応じ、書く必要のあることを収集したり選択したりして、自分の考えが明確になるように段落相互の関係を考えながら書くことを学びます。

相手や目的に応じて、段落相互の関係を押さえ、中心となる語や文をとらえて文章の内容を正しく読むことを学びます。また、いろいろな読み物に興味をもって読む態度を育てます。

## 学習の方法

関心をもって進んで本が読めるように、読み聞かせてお話を聞いたり本の紹介をし合ったりします。

話したり聞いたりする力がつくように、学級や学年で発表会の体験を重ねます。

相手に分かりやすく伝わる文章が書けるように意識しながら日記や作文を書きます。

内容を適切にとらえられるように表現を工夫しながら音読の練習をします。

総合的な学習や他教科との関連を図り、幅広く豊かな学習を進めます。

## 学習の評価

国語科では次の観点で評価します。

「国語に関心を持ち幅広く読書しようとする」

授業中の態度や発言・学習用具の準備や提出物・読書の様子等

「相手や目的に応じ、筋道を立てて話し、話の中心気を付けて聞く」

発表の様子・発表に対する感想や意見の出し方・話し合いの様子・テスト等

「相手や目的に応じ、段落相互の関係などに注意して文章を書く」 活動報告文・作文・感想文・手紙・日記・テスト・メモ等

「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む」

文章の読み取りの発言内容・音読の様子・テスト等

「伝統的な言語文化(短歌・俳句・ことわざ・故事成語等)に触れたり、音声、文字、語句などの基礎を理解したりする」 ノート・テスト・書写等

	学習する単元	学習の内容
前期	1 物語をくふうして音読しよう 「こわれた千の楽器」 ・心の動きを文章に書こう ・漢字の読み方に気をつけよう	場面の様子や人物の気持ちが伝わるように工夫して音読するようにします。
	2 段落のつながりをとらえながら読もう 「ヤドカリとイソギンチャク」 ・案内係になろう ・わたしが選んだ今月のニュース ・漢字辞典の使い方を知ろう	段落と段落の結びつきをとらえ、文章のまとまりを考えながら読むようにします。
	3 人物の様子や気持ちを考えながら読もう 「走れ」 ・メモの取り方をくふうして聞こう	中心となる人物に気を付けて、様子や気持ちを考えながら読むようにします。
	4 目的による表し方のちがいを考えよう 「広告と説明書を読みくらべよう」 ・わたしの考えたこと ・「ことわざブック」をつくらう ・詩を読もう 「ふしぎ」「よかったなあ」 ・「今の自分」を話します ・お願いやお礼の手紙を書こう ・文末の言い方に目を向けよう 書写 画の方向 組み立て方 自由作文	目的による表し方の違いや述べ方の工夫を読み取るようにします。  ことわざや故事成語について知り、ことわざの意味を理解して使えるようにします。  伝えたいことをはっきりさせ、材料を選んで話したり、自分の考えと比べながら聞いたりします。  組み立てを考えると「羊」「麦」字形を考えると「左右」を毛筆で書きます。
後期	5 人物の気持ちの変化を考えて読もう 「ごんぎつね」 ・連詩にちょうせんしよう ・文の組み立てを考えよう	場面の移り変わりに気を付けて、人物の気持ちの変化をとらえるようにします。
	6 くらしの中の世界について調べよう 「くらしの中の和と洋」 ・みんなで話し合おう	まとまりごとの内容を考えながら読み取ったり、何をどのように比べているかを考えながら読み取ったりします。
	7 取材したことをもとに学級新聞を作ろう 「みんなで新聞を作ろう」 ・文と文をつなぐ言葉の動きを考えよう	取材したことを整理して、分かりやすい記事を書きます。また、読み手の興味をひく書き方を工夫します。
	8 家族やふるさとを思う心をえがいた本を読もう 「世界一美しいぼくの村」 ・「百人一首」を声に出して読んでみよう ・目的に合わせて書こう	家族やふるさとを思う心を描いた、いろいろな本を読みます。
130 時間	9 調べたことをポスター発表で報告しよう 「報告します、みんなの生活」 ・同じ読み方の漢字に気をつけよう	調べたことを整理して、ポスターを使いながら順序よく報告できるようにします。
	10 わたしたちの生活とロボットについて考えよう 「ゆめのロボット」を作る ・「十さいのわたし」文集を作ろう ・漢字を使って読みやすい文を書こう	筆者の考えがどんな言葉で表されているかに注意して読むようにします。
	11 様子が分かるように音読げきをしよう 「木龍うし」(人形げき) 書写 筆順と字形 筆遣い 文字の中心 自由作文	場面の様子や人物の気持ちが伝わるように、工夫して音読劇をします。  字形を考えると「土地」「竹笛」「わざ」  文字の中心を考えると「晴れた空」「切手」を毛筆で書きます。